



ついに来た、マッチNIB王!

新緑まぶしくそよ風が吹く五月晴れの5月12日(日)板橋平和公園で第十七期 NIB 王戦が行われ、飯能の雄マッチが、カツヤ、げんたを振り切り、栄光の初優勝を飾った。東吾野ベーゴマクラブを立ち上げ早や5年、先月は愛弟子のヒロキが子ども王を獲り、今月は自分が優勝と、まるで盆と正月がいっしょにきたようだ。マッチが一所懸命にベーゴマを子どもたちに教えているのを、神様はちゃんと見ているんだねえ。



マッチ、げんた、まみい おめでとう!

カツヤ、げんた初優勝にあと一步及ばず

3人同時入れのNIB王戦は、多分に運の良し悪しが勝負を決する。この日運よく準決勝に進んだ人は、マッチ、ギャオス、げんた、ピラケン、ヤマト、ハルク、まみい、カツヤ、たかみちの9人だ。あまり優勝とは縁遠い顔ぶれだ。実力だけではどうにもならないのがNIB王戦なのだ。だから面白いともいえる。この中から乗ってるマッチ、カツヤ、げんたの3人が決勝に挑む。誰が来ても初優勝だ。

序盤はカツヤが飛ばした。3回戦を終わり4-10-0の大差だ。2回戦でふたつ飛ばしたのが大きい。しかし、中盤に入るとマッチが盛り返し、11-10-3と逆転する。紙一重の接戦だ。このまま二人の争いになるかと思いきや、ここからげんたが追い上げ、最終戦を迎えた段階で11-10-7となり、カツヤ、げんたにも初優勝の可能性が残される。そして迎えた最終戦、緊張の一瞬だが、ここで明暗が一気に分かれる。入れた瞬間にマッチベーがげんたベーを弾き飛ばしたのだ。これで勝負あり、マッチの見事な逆転優勝だ。予選をトップで乗りに乗ったマッチ、最後までブレることなく勝負に集中できたようだ。おめでとうマッチ。



子ども王はげんた、女流王はまみい

オヤジとは別行動のげんたが、通算4度目の子ども王となった。NIB王戦を予選3位で準決勝に進み、優勝が目の前にあっただけに、子ども王よりも優勝の二文字が欲しかっただろう。でも、落ち込むことはない。この分だといずれ優勝は手に入るだろう。それだけの力がついてきているのだから。女流王はまみいだ。本人もどこに入るのかわからないのが功を奏するのか、予選6位で準決勝に進み、NIB王戦は3度目の女流王だ。おめでとう、げんた、まみい。



名人戦は混戦模様、トップは松ちゃん

名人戦五月場所は4点差で5人がひしめく大混戦だ。かろうじてトップは松ちゃんだが、1点差でジョージとピラケン、さらに3点差でイッサとマッチが続く。アベレージもトップの松ちゃんが2.14だから、いつ抜かれてもおかしくはない。6位にアベレージ3.14の鉄人後藤、9位に同じく3.80の岩坊がいるのも不気味だ。みんなの実力が拮抗している証拠だろうが、しばらくはこのまま混戦が続くのかも知れない。なお、現名人位のとーさん成田は高みの見物としゃれ込んでいるから憎いね。

ガチホンコはピラケンが初優勝

先月から本場所に復帰したピラケン(ヒラケン改め)が、ガチホンコで初の全部取りに成功した。岩坊、ジョージに勝ち、準決勝でヒロキを飛ばし、決勝でハルクを一発撃沈だ。床の中央で相手を待ち伏せ、来たところを強烈に弾き飛ばす、まさに横綱相撲。第六期名人位にふさわしい勝ちっぷりだ。大出ほんこでみっちり鍛え上げられ、柔から剛へ変身したピラケン、今後台風の目になるかも知れない。

